

獨協中学・高等学校の財務について

本校の平成28年度決算および平成29年度予算の概要をご報告いたします。

また、獨協学園全体の財務状況については、獨協学園のホームページ <http://www.dac.ac.jp/> に詳しく掲載しておりますのでご覧ください。

1. 事業活動収支計算書の概要（表1参照）

平成28年度の決算では、事業活動収入計は予算対比37百万円増の1,479百万円となりました。事業活動支出計は予算対比51百万円増の1,445百万円となりました。また、基本金組入前当年度収支差額は予算比△14百万円減の34百万円、基本金組入額が21百万円となったことから、当年度収支差額は12百万円の収入超過となりました。

増減の主なものとして、収入面では雑収入、学生生徒納付金、寄付金、経常費等補助金の増、手数料、付随事業収入の減などがあり、支出面では人件費、管理経費の増、教育研究費の減などがあげられます。

平成29年度の予算では、事業活動収入計は前年予算比△19百万円減の1,422百万円、事業活動支出計は前年予算比△8百万円減の1,386百万円で、基本金組入前当年度収支差額は△11百万円減の36百万円を見込み、当年度収支差額では1百万円の収入超過を予想しております。

平成28年度予算対比での増減の主なものとして、収入面では経常費等補助金、学生生徒納付金、雑収入の増、手数料、寄付金、付随事業収入、施設設備寄付金の減などがあり、支出面では、人件費、教育研究経費、管理経費の減などがあげられます。

2. 資金収支計算書の概要（表2参照）

平成28年度決算では、前年度繰越支払資金は1,104百万円で、収入の部合計で予算対比△53百万円増の3,600百万円となりました。資金収入から支出を差し引いた次年度繰越支払資金は、予算対比△16百万円の増の1,091百万円となりました。

平成29年度予算では、収入の部合計は平成28年度予算対比44百万増の3,696百万を見込みます。次年度繰越支払資金は前年予算比△126百万減の981百万円を予想しております。

平成28年度事業報告と平成29年度事業計画について

1. 平成28年度事業報告の概要

(1) 教学関係の主要事業

①ICT教育への布石

平成28年度は、若手教員を中心に組織したICT研究会を立ち上げ、所属する教員用のタブレットおよび生徒用タブレット、プロジェクターを購入し、これらを活用した授業が実施されました。研究会では活発な議論が行われ、平成29年度以降の本格的なwifi環境整備に向けて、準備が進んでいます。

②ALTとケルン大学教育実習生の受け入れ

平成28年度は、9月から新たに1人のALTを迎えて、2人のALTが英語の授業の補助、昼休みのテーブルトーク、放課後の英会話教室などで大いに活躍しました。また、ケルン大学日本語教育課程に登録されている実習生受け入れのためのケルン大学との契約調印を平成27年度末に行いました。平成28年度は、夏休みのドイツ研修旅行の際、ケルン大学を訪問し、大学および実習生本人との間の打ち合わせを行い、迎え入れの本格的な準備に入り

ました。

③海外研修の深化

海外研修(希望制のシアトルホームステイ・イエローストーンサイエンスツアー・ドイツスタディーツアー、全員参加のハワイ修学旅行)を、それぞれのテーマに沿って実施しました。平成28年度も事前学習から積極的に取り組み、より実りある行事へと深化しています。

④チューター制度の見直し

大学生のインターンシップという位置付けで実施しているチューターによる学習指導は、学習單元ごとのドリル形式のプリントを作成することができるPCソフトである「eトレ」を導入し、より積極的に生徒の学習面にも関わる仕組みができつつあります。

⑤環境教育

ビオトープ・屋上壁面緑化・獨協の森の維持管理を続けてきました。平成28年度は特に、生徒たちが自らファシリテーターとなって、近隣の小学校に本校で作った箱庭ビオトープを設置し、そこで見られる生物の生育や変化について、小学生たちに出前授業を行う活動を新たに始めました。

⑥中学入試と広報活動

平成28年度は初めて「プレミアム学校体験会」を実施し、多くの受験生・保護者の方を迎えて、本校の教育活動の一端を知っていただく機会としました。学校説明会では、生徒によるプレゼンテーションを導入することで、生徒の様子を見ていただく機会として好評でした。

(2) 施設・設備関係の主要事業

- ①実験的ICT環境を備えた視聴覚室を整備しました。
- ②教員用ファイルサーバーおよびプリンターを更新しました。
- ③校外施設「海の家」の一部を建て替えました。

2. 平成29年度事業計画の概要

(1) 財務の現状と課題

本校の財務は、平成19年度に黒字決算に転換以降、「基本計画」に沿って各種引当特定資産の積み増しを行うなど、財務内容は着実に改善しています。

平成29年度予算においても、安定した収入を確保し、併せて諸経費の抑制等の諸施策を講じつつ、減価償却等で得られた内部留保により、減価償却引当特定資産への積み上げ等、今後見込まれる施設設備の改善・整備や校舎、体育館の再建築に対応できる、より強固な財務基盤の構築を目指します。

(2) 主要方針

生徒の人間性、学力の一層の向上を目指して、生徒の夢(将来の進路)を実現させるとともに、社会に貢献できる人材の育成を図り、「魅力あふれる学校」作りを引き続き目指します。

(3) 教学関係の主要事業計画

①ICT教育施設の充実

平成28年度に1年間を掛けて検証してきたタブレットおよびプロジェクターの活用研究の成果を活かして、平成29年度は本格的な全クラス Wifi 環境の整備に取り掛かります。第2段階として、その環境をベースにして、カリキュラムやシラバスとの関連を見据えながら、授業研究ならびに教育機器研究を行います。

②国際化と海外研修

ハワイ修学旅行・シアトルホームステイ・イエローストーンサイエンスツアーは本校のグローバル教育として定着しています。平成29年度からドイツ研修のプログラムが見直されて新た

な段階に入ります。定評のある環境教育やホームステイ、ベルリン研修に加えて、ドイツの歴史・地理を学ぶツアーや文京区姉妹都市訪問などを検討します。

またケルン大学生の実習生受け入れを継続しつつ、英語ネイティブと共に、普段から外国人と親しめる環境の充実を図り、語学力やコミュニケーション能力の育成に力を入れます。

③環境教育

今まで発展させてきた獨協の環境教育施設を維持しつつ、学内だけの取り組みに終わらせないために、生徒が環境ファシリテーターとして周辺の小学校に出向き、環境教育の輪を広げていく試みを充実させます。

④中学入試募集広報

ホームページを見直し、外部への情報発信を強化します。平成 28 年度に新たに実施したプレミアム体験会は、より多くの教職員の協力が必要でしたが、それだけ好評を博する企画でした。このように以前にも増して、教職員間の情報共有を強化して一層の広報活動の充実を図ります。

⑤チューター制度

チューターが待機する自習環境を整えつつ、生徒の自主的な学習を促します。今までは大学受験を意識して高3生の利用を想定してきましたが、平成29年度以降は、より多くの生徒に勉強環境を提供できるよう下級生の利用を促進します。

(4) 施設・設備関係の主要事業計画

- ①ICT機能を活かした授業推進の為、教室のICT環境を、基本計画比 1 年前倒しで整備します。
- ②サーバーおよび印刷機・プリンターの一部を更新します。
- ③照明のLED化を進めます。
- ④体育館の電気設備(照明)を更新します。

表1

事業活動収支(平成28年度決算・平成29年度予算)の概要

(単位:百万円、端数未調整)

科 目		年 度	平成28年度			平成29年度		
			予算	決算		差異	予算	対前年差異
				a	b			
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	909	915	61.9%	6	913	5
		手数料	26	20	1.4%	△5	23	△3
		寄付金	27	31	2.1%	4	27	△1
		経常費等補助金	416	419	28.3%	2	431	14
		付随事業収入	3	2	0.1%	△1	1	△1
		雑収入	26	57	3.9%	31	27	2
		教育活動収入計	1,406	1,443	97.6%	37	1,422	16
	事業活動支出の部	人件費	995	1,071	74.1%	76	993	△2
		教育研究経費	326	302	20.9%	△23	323	△2
		(うち減価償却額)	(121)	(121)	8.4%	(△0)	(118)	(△3)
		管理経費	48	49	3.4%	1	45	△2
		(うち減価償却額)	(4)	(4)	0.3%	(△0)	(4)	(△0)
		教育活動支出計	1,368	1,422	98.4%	53	1,361	△7
	教育活動収支差額	38	22		△16	61	23	
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	0	0	0.0%	△0	0	△0
		教育活動外収入計	0	0	0.0%	△0	0	△0
	支出	借入金等利息	0	0	0.0%	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0.0%	0	0	0
		教育活動外収支差額	0	0		△0	0	△0
	経常収支差額	38	22		△16	61	23	
特別収支	収入	施設設備寄付金	35	35	2.4%	0	0	△35
		特別収入計	35	35	2.4%	0	0	△35
	支出	資産処分差額	0	2	0.1%	2	0	0
		法人負担金等支出	23	22	1.5%	△1	22	△1
		特別支出計	23	24	1.6%	1	22	△1
	特別収支差額	12	11		△1	△22	△34	
	[予備費]	3	0	0.0%	△3	3	0	
	基本金組入前当年度収支差額	47	34		△14	36	△11	
	基本金組入額合計(△)	△35	△21		14	△35	0	
	当年度収支差額	12	12		0	1	△11	
	前年度繰越収支差額	△3,547	△3,558		△11	△3,583	△36	
	翌年度繰越収支差額	△3,535	△3,546		△11	△3,582	△47	
参考	事業活動収入計	1,442	1,479	100.0%	37	1,422	△19	
	事業活動支出計	1,394	1,445	100.0%	51	1,386	△8	

(各収入または各支出科目の構成比は「事業活動収入計」または「事業活動支出計」を100%とした比率)

資金収支(平成28年度決算・平成29年度予算)の概要

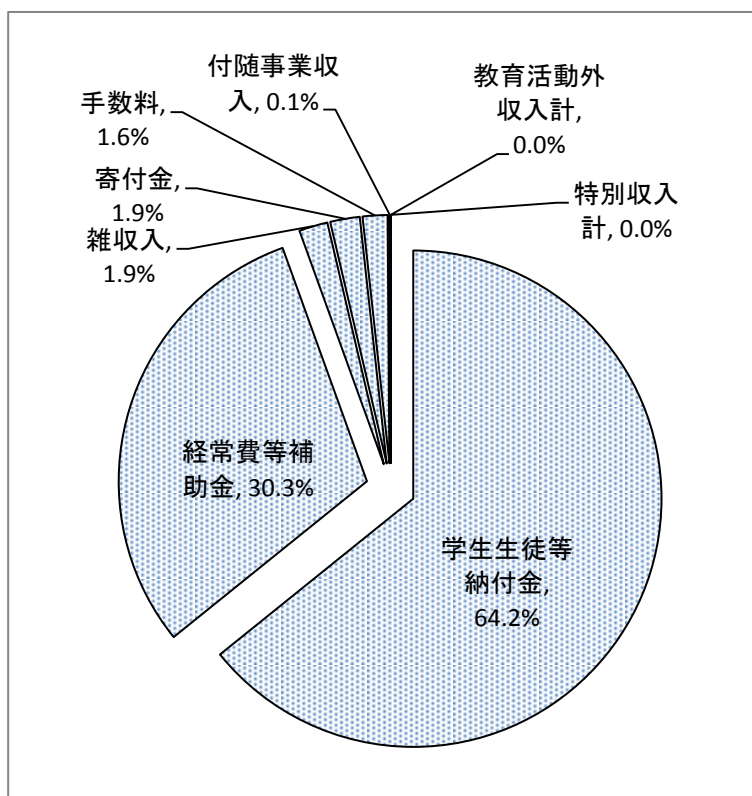
(単位:百万円、端数未調整)

年度 科目		平成28年度			平成29年度		
		予算	決算		差異	予算	対前年差異
		a	b	構成比	b-a	c	c-a
収入 の 部	学生生徒等納付金収入	909	915	25.4%	6	913	5
	手数料収入	26	20	0.6%	△5	23	△3
	寄附金収入	62	66	1.8%	4	27	△36
	補助金収入	416	419	11.6%	2	431	14
	付随事業・収益事業収入	3	2	0.0%	△1	1	△1
	受取利息・配当金収入	0	0	0.0%	△0	0	△0
	雑収入	26	57	1.6%	31	27	2
	前受金収入	144	119	3.3%	△25	116	△27
	その他の収入	1,115	1,100	30.6%	△14	1,234	119
	資金収入調整勘定(△)	△167	△202	-5.6%	△35	△140	27
	前年度繰越支払資金	1,119	1,104	30.7%	△16	1,063	△56
	収入の部 合計	3,652	3,600	100.0%	△53	3,696	44
支出 の 部	人件費支出	968	1,075	29.9%	107	984	16
	教育研究経費支出	205	182	5.0%	△23	205	1
	管理経費支出	44	45	1.2%	1	42	△2
	施設関係支出	39	34	0.9%	△5	9	△30
	設備関係支出	15	11	0.3%	△4	26	11
	資産運用支出	1,119	1,119	31.1%	0	1,230	111
	その他の支出	118	115	3.2%	△3	203	85
	[予備費]	3	0	0.0%	△3	3	0
	資金支出調整勘定(△)	△37	△144	-4.0%	△106	△58	△21
	法人負担金等支出	23	22	0.6%	△1	22	△1
	内部資金支出	50	50	1.4%	0	50	0
	翌年度繰越支払資金	1,107	1,091	30.3%	△16	981	△126
支出の部 合計	3,652	3,600	100.0%	△53	3,696	44	
繰越資金増減額		△12	△13		△0	△83	△70
退職金支出		24	129		105	45	20

平成29年度 事業活動収支構成比グラフ

事業活動収入 構成比

教育活動収入	学生生徒等納付金	64.2%
	経常費等補助金	30.3%
	雑収入	1.9%
	寄付金	1.9%
	手数料	1.6%
	付随事業収入	0.1%
	教育活動外収入計	0.0%
特別収入計	0.0%	
事業活動収入計		100.0%



事業活動支出 構成比

教育活動支出	人件費	71.6%
	教育研究経費	23.3%
	管理経費	3.3%
教育活動外支出計		0.0%
特別支出計		1.6%
(予備費)		0.2%
事業活動支出計		100.0%

